

## 桂米朝×筒井康隆 「対談 笑いの世界」(2003)

### 1. 概要

発行年	平成15年(2003年)9月
発行先	朝日新聞社(東京都中央区)
著者	桂米朝×筒井康隆
全頁数	233

### 2. 本書について

本書第4章「モダン心齋橋コレクション」で紹介したように橋爪節也氏より桂米朝×筒井康隆著「対談 笑いの世界」(朝日選書735)をご紹介いただいた。電気科学館に関係したところを紹介してみたい。

### 3 チャップリンと新喜劇

筒井 チャップリンは、確かにギャグは面白いんですけどね。人情話の方へ行ってしまうところがある。これはぼくの好みですけど、もっとドライな方がいいなといつも思うんですが。

米朝 初期の短篇はドライやったけど。

筒井 短篇はまた、ギャグがたいしたことない。

米朝 やっぱあの動きが。

筒井 動きが凄いです。初期のはチャップリンが悪い奴になってる。非常に悪い奴で、目茶苦茶するんですね。短編では、最初に見たのは長編の「黄金狂時代」で、小学校六年やったかな。吹田東宝で見て、これは戦前の焼け残りのフィルムでブツ切れやったけど、目茶苦茶面白かった。あと、完全なものを四つ橋の電気科学

館で見ました。あそこはいいものをやっていた。

米朝 やっていた、やっていた。

筒井 あそこで見たら綺麗なフィルムやったから、これは嬉しかった。

米朝 天井に映したんや。

筒井 そう。プラネタリウムをやる星空のドームに。ほかに映画館なかったからね。

米朝 みんな、こうやって上向いて見てるんや。

筒井 丸天井へ内側から映した。ときどき星の形が残ってたりして(笑)。

—— 見づらくはなかったですか。

筒井 見づらいよ、そりゃ(笑)。「カサブランカ」もあそこで見たな。

米朝 「我が道を往く」を見たかな。

筒井 ダニエル・ダリユウとアルベール・ブレジャンの「不良青年」とか。あのドームの裏側というか、表側が屋上の地球儀になってたんですね。屋上に地球儀の半球があつて。

米朝 外から見たらね。

筒井 外から見たら。

チャップリンではあと、ヒトラーを皮肉ったやつ。

米朝 「独裁者」。

筒井 ぼくはあれをいちばん評価しますね。

米朝 感動したな、あれは。